



# さん が

第 六 七 号

平成 二二 年  
西暦 二〇一〇 年  
秋彼岸 九月 号

曹洞宗 東運寺

京都市伏見区淀新町六一八一  
TEL 〇七五-六三一-二二七二  
FAX 六三一-五七二五  
URL <http://tounji.net>

お彼岸は、お盆と並んで先祖祭りの行事となつていますね。お彼岸は日本独特の行事と言われています。

平安時代はじめの大同元年（八〇六）、崇道（すどう）天皇のために、全国の僧たちに春秋二回、七日の間、「金剛般若経（こんごうはんによきょう）」というお経を読ませたというのが、そのルーツとされています。

崇道天皇は怨霊話して知られています。

平安京に都をうつした桓武天皇の弟で、実際には天皇にはなりません。ある暗殺事件の黒幕と噂され無実を訴えたまま亡くなったあと、皇室に病死があいついで祟りと思われ、その怨みを鎮めるために天皇と呼ぶようになったと伝えられています。

お彼岸の起源には、荒ぶる霊をなぐさめる意味があったようです。



また、お彼岸は、太陽が真東から上がり真西に沈む日



を中心に七日間あります。太陽は私たちが生きるうえで無くしてはならないもの。むかしから太陽を拝む信仰もあります。そこには作物の豊穰を祈ったり、豊作を感謝したりする気持ちが込められてきたのでしょう。

熱中症が猛威をふるった酷暑の夏もようやく終わり、今年も秋のお彼岸がやってまいります。

どうかみなさまにおかれましては、ご先祖さま、または新しい故人の前で、生きている感謝をなされ、その恩にむくいる日々がお過ごしいただけますように。

そしてその道行きが仏さまによって照らされて、これからも不安のない人生をお送りいただけますように。

七月に腰を痛めご心配をおかけしていた東堂（前住職）ですが、おかげさまで体調も戻り元気になりました。

お盆のお参りをお休みしたお宅もあり、たいへんご迷惑をおかけしました。あらためて、お詫び申し上げます。

## 先々代（第十六世）住職の

### 五十回忌法要をします

きたる秋彼岸お中日（九月二十三日―秋分の日）、いつもの施食法要に先立ちましておこないます。

先々代藤井梅蘂（ばいずい）住職は、愛知県碧海郡高岡町（現豊田市）の生まれ。明治三十二年以来、じつに六十年ものあいだ住職であり、その間に護持会が作られたり、現在の本堂が建てられました。

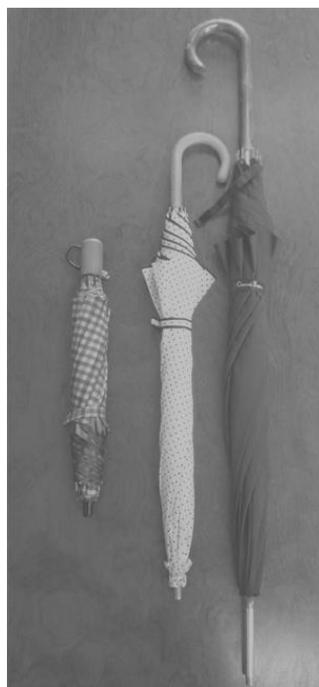
昭和三十六年に亡くなっていますので、もう檀信徒のみなさまの中でも、直接ご存じの方は少なくなってきたいるでしょうか。しかしながら、東運寺の基礎を築いた和尚さんの法要です。どうぞおまいり下さいませ。

なお、誠に勝手ながら、お供えはご遠慮申し上げます。



## ☆忘れもの お預かりしています

「黒の長傘」「白に黒の水玉」「青チェックの折りたたみ傘」の三本です。お心当たりの方は、どうぞお申し出ください。



## ☆ホームページ 好評です

六月十五日に開設した東運寺ホームページ、多くの方から「見ましたよ」と言っていたできました。

まだまだ中身も少ないですが、これからもどんどん充実させていきます。ぜひともご覧くださいね。

京都 東運寺

検索

